

輸血を拒否される患者さんへ

朝日大学病院では、「**相対的無輸血**」を基本方針として以下の対応をいたします。

- ・宗教上の理由で輸血を拒否される患者さんに対して、診療拒否はいたしません。
- ・宗教上の理由で輸血を拒否される患者さんや御家族から提出された輸血謝絶兼免責証明書等の「**絶対的無輸血**」に関する同意書類には、一切署名をいたしません。
- ・患者さんの意思を尊重し可能な限り無輸血治療を行います。生命維持に危機が及び、輸血を行うこと以外に重大な結果（死亡等）を回避できないと医師が判断した場合は、輸血を行います。この場合、患者さん又は御家族からの「輸血同意書」が得られなくても輸血を行います。
- ・輸血拒否により「手術同意書」が得られない場合であっても救命のための緊急手術が必要と医師が判断した場合は、手術を行います。

なお、当院の基本方針を、宗教上の理由で輸血を拒否される患者さんや御家族に、ご理解を得るよう十分説明をいたしますが、どうしても同意が得られない場合や、治療に緊急性がないと判断した場合は、他院での治療をお勧めします。

<用語の定義>

絶対的無輸血：患者さんの意思を尊重し如何なる事態でも輸血はしない考え方。

相対的無輸血：患者さんの意思を尊重し可能な限り無輸血治療を行うが、輸血以外に救命ができないと判断した場合は輸血を行う考え方。

平成 27 年 7 月 1 日
朝日大学病院
病院長 大橋宏重